令和五年度

第二十三回「防火防災に関する」作文コンクール入賞作品集

第三十九回防火ポスターコンクール入賞作品集

生活協同組合　全日本消防人共済会
公益財団法人　日本消防協会

はじめに

近年は、世界中、これまでと様子が異なる様々な災害が発生しています。これまでと同様に発生する火災、地震もあります。そのような中で、何としても生命財産を守るようできる限りの努力をしなければなりません。そのためには、地域の皆さんのご参加ご活躍による地域防災体制が大事ということで、十年程前にこのことを進める新しい法律を制定して頂きました。

このような背景のもと、小中学生の頃から防火防災に関心を持ちながら成長して頂きたいという願いで、この防火防災をテーマとする作文、ポスターのコンクールを続けてまいりました。今年の作文のテーマは、「消防団、明るく元気な地域とともに」とし、ポスターは、「火を消して　不安を消して　つなぐ未来」という今年の防火標語を活かして頂くことにしました。

毎年、本当に多くの皆さんにご参加頂いて、ありがたく思っていますが、今年も、皆さんご熱心にお取組み頂いて、多数の皆さんにご参加頂きました。ご参加頂いた皆さん、そしてご指導頂きました先生や保護者の皆様など、ありがとうございました。深く感謝申し上げます。

この作文、ポスターのコンクール開催が、皆さんの防火防災に対するご関心を高め、地域の防火防災体制の一層の強化にお役に立てることを心から願っております。

最後になりましたが、多数の応募作品の審査という大変なお仕事にご協力頂きました皆様に深く感謝申し上げます。

生活協同組合　全日本消防人共済会
公益財団法人　日本消防協会
会長　秋本敏文

もくじ

第二十三回 「防火防災に関する」作文コンクール入賞者一覧表

最優秀賞（一名）

山梨県 甲州市立塩山中学校 二年 増田涼乃……1

優秀賞（二名）

福岡県 福岡市立三筑中学校 二年 長島颯……2

富山県 立山町立雄山中学校 一年 松井花奈……3

佳作（七名）

栃木県 下野市立南河内小中学校 八年 上野夏凜……4

熊本県 芦北町立湯浦中学校 二年 中尾はずき……5

栃木県 下野市立南河内小中学校 八年 伊澤丈桜……6

福岡県 大牟田市立甘木中学校 三年 廣田礼那……7

三重県 亀山市立関中学校 三年 大澤孝太朗……8

鹿児島県 出水市立出水中学校 二年 下薗虹空……9

茨城県 河内町立かわち学園 七年 野口虎我……10

第三十九回 防火ポスターコンクール入賞者一覧表

最優秀賞（一名）

鳥取県 鳥取大学附属中学校 三年 大森一芭……11

優秀賞（二名）

福島県 会津若松市立謹教小学校 六年 坂本修吾……12

岐阜県 大垣市立西部中学校 三年 塚口海翔……12

佳作（八名）

岐阜県 輪之内町立仁木小学校 五年 田中愛理……13

香川県 綾川町立綾川中学校 二年 六車玲奈……13

長野県 山ノ内町立山ノ内中学校 一年 関桜香……13

宮崎県 日南市立飫肥中学校 三年 藤井帆奈海……13

栃木県 下野市立石橋小学校 五年 平原花乃……14

熊本県 宇土市立鶴城中学校 二年 福田梓……14

山梨県 富士吉田市立下吉田第二小学校 五年 白須稜采……14

広島県 福山市立鳳中学校 三年 松井優加子……14

最優秀賞

山梨県
甲州市立塩山中学校　二年　　増田涼乃

安心、安全なくらしを地域全体で

私の大叔母は、女性消防団員を二十一年間勤めました。入団したきっかけは裾野市が新しく女性消防団を発足するため、男性消防団員の友人に誘われたからだそうです。全てが初めてのことばかりで、誰も何もわからず、手探りでのスタートでした。人のため、地域のためと自覚が出てきたのは数年後だったと話してくれました。

正直、私は消防団の仕事の内容を知りませんでした。地域内で火災が起きた時に消防士の手伝いをする人たち、というあいまいな認識だけでした。

「おばちゃんは消防団で何をしていたの？」私は初めて大叔母にたずねました。

「男性消防団員と女性消防団員の仕事は少し違うのよ」

と消防団について説明をしてくれました。男性消防団員は火災の時に出動、女性消防団員は火災予防の啓発活動と応急手当の指導が主な仕事。団員はそれぞれ自分の仕事を持ちながら、地域のために時間を割いて勉強や訓練をしているのだと教えてくれました。

裾野市では夏に一度大きな花火大会が行われます。私は毎年その花火大会がとても楽しみでした。現地に行くと、消防団の制服を着たたくさんの消防団員の方々が広い運動場を見回っています。そこで大叔母に会うのも当たり前のことでしたが、今考えると、消防団員の方々は、みんなの安全を守るために、何日も前から打ち合わせをし、準備をしていたのだろうと、ありがたい気持ちになりました。

最後に大叔母に入団して良かったことは何かとたずねました。大叔母は、

「応急手当指導員になれたこと、そしてたくさんの仲間が出来たことかな」

と話してくれました。

私たちの地域で活躍してくれている消防団のみなさんがいることを、私たち子供がもっと知るべきだと思いました。火事を起こさず消防団のみなさんの仕事が増えないことが一番ですが、災害時の備えも大人だけでなく、私たちから発信出来ればもっと広がると思います。

小学校、中学校の授業やレクリエーション、地域の集まりなど、直接消防団員の話を聞いて、私たちに必要なことを勉強に取り入れるべきだと考えました。地域全体で心掛ければ安心かつ明るい町になると思います。

今、私に出来ることは何か、私たちが行動すべきことは何か、地域全体で考えていきたいです。そして、消防団のみなさんと共に、安心安全で明るい町にしたいです。

優秀賞

福岡県
福岡市立三筑中学校　二年　　長島　颯

身近な消防団

私の祖父は、消防団員でした。

今は、私の父も消防団員です。

父が二十代の頃に、放火の延焼で祖父が開いていたお寿司屋さんと、その裏にあった自宅が燃えてしまう、という出来事が有ったと聞きました。

当時は、消防団員だった祖父は、祖母と子供達の身の安全を確認した後、消火活動を行いました。

自分のお店と家は燃えてしまいましたけど延焼は食い止めたい一心だったと思います。

家族を置いて消火活動を行った祖父はどんな気持ちだったのでしょうか。

もし私だったら、焼け出された家族の元を離れられないと思います。

着る物も、食べる物も、寝る所も、思い出の物も、お金も焼けてしまった父達でした。

そんな父達に沢山の人達が親切にしてくれた事も有って、父は「消防団」「防犯部長」「おやじの会」など、地域に根差した活動をすることができています。

消防団活動を通じて沢山の人と繋がりが出来たり、挨拶し合う人が居たり、「友達」とは違う「仲間」や「同士」が父には沢山居ます。

私達が寝ている夜中に火事が起こっても、大雨で道路が冠水しても、「ここにはお年寄りが一人で住んでいる」、「ここは去年も水が溢れた」と常に皆の事、地域の事に目配り心配りをしています。

そんな日常を意識している訳では無い様ですが、楽しんでいるように見えます。

私達の前では、そんな素振りを見せない明るい父です。

私達の身近にある安心が、こんなに身近な人達の手によって守り続けられていることを嬉しく思います。

父にすすめられて私は、小学校の時に「少年消防団」に入りました。

そこで、他校区の子達と知り合い、規律大会で優勝したり、キャンプで広い地域の人達と仲良くなったりと、私も少年消防団活動を通じて「身近な消防団」を体験することができました。

規律大会では、皆と息を合わせて動きを合わせる練習をしたり、キャンプでは段ボールで囲った所で過ごしたり、温めなくても美味しいカレーを食べたりしました。

少年消防団での活動中でも、消防団員の皆さんは私達の事を遠くから、また寄りそいながら見守ってくれていたと思います。

「縁の下の力持ち」の消防団の事を、もっと広く深く知って欲しいし理解して欲しいと思います。

富山県
立山町立雄山中学校　一年　　松井花奈

消防団と今の私にできること

「富山県は立山さんが守ってくれるから大丈夫やちゃ」

私の祖父は台風が来ても、地震が来てもいつも口癖のように言っている。それをいつも聞いている私は富山県は災害が少なく、安全で安心な県だと認識しているし、実際、県民の多くも富山県は災害が少ない県と口をそろえて言うし、そう信じている。

気象庁のデータでも富山県は日本で一番地震が少ない県であり災害も少ない県と発表されている。

しかし今年、私は大雨ですごく怖い体験をした。富山県に記録的大雨が降ったのだ。集中豪雨により、河川が氾濫し八〇〇棟を超える住宅や農地に浸水被害があった。私はその日は家の中にいたが激しい雨音や夜中に何度も土砂災害警戒アラートが鳴り、すごく怖かった。

「このまま雨が降り続き川が氾濫したら、私の家が流される」

そう思うと夜も眠れなかった。

朝になると家の前の車庫は水位二十センチの所まで上がってきている跡があり、近所の道路に水があふれ、川のようになっていたり、土砂で家が潰されている様子などがテレビの全国ニュースで放送されていた。

私は何もできなかった。富山県は大丈夫だと思っていたので、特に防災に関する知識もなかった上、何の備えもしていなかったからだ。だがもし公園で遊んでいたり、一人で家にいる時に突然の災害が起こったら私は何もできない。そのことに気づき、私は一人でも行動できるように防災について色々調べ学んだ。

富山県には地域を守る消防団が十五団あり、その中に三二三の分団があることを知った。本業の仕事とは別に、火災や災害が起きた時、消防署員と共に救助活動をする消防団の方々がいつも私たちの町を守っていて、消防団員がいるからこそ毎日安心して暮らしていけることを知った。しかし最近、消防団員は年々減ってきているという。このままではいけないと思い、私たち中学生でも地域の消防団や防災のために何かできないか考えた。

まず消防団の活動、活躍、存在、思いをたくさんの人たちに知ってもらうことが大切だと考える。みんなで情報を発信すれば、将来は消防団に入団したいと思う子どもは増えると思う。また地域の方々が消防団の活躍や思いを知れば、消防団への感謝の気持ちがたくさん増えると思う。その為にはたくさんの情報を発信することが大切だと思った。また最近では女性の消防団員も増えてきていて、女性にしかできないことがあるという。

私も将来は女性団員になりたい。明るく元気な地域とともに、安心して暮らす未来の町に消防団はなくてはならない存在であり、そんな未来になるかはこれからの私たちの気持ち次第だ。

佳作

栃木県
下野市立南河内小中学校　八年　上野夏凜

父の背中から見た地域防災

私の父は消防団員です。地域の成人男性が少なく、渋々入ったため時折文句を言う父ですが、そんな父の姿に励まされた瞬間がありました。

最初は数年前の大雨の日、全国的に台風による記録的豪雨の災害が発生したときのことです。普段聞きなれないアラートが鳴った夜、川の氾濫を防ぐために、消防団による土手に土のうを積む作業が行われることになりました。なかなか鳴り止まないアラートと大つぶの雨音や窓の外の暗やみが家族を不安にさせる中で、父は「いってくる」とだけ言い、車を走らせていきました。父は避難指示がでていたにも関わらず、増水した川の側での作業をしていたそうです。それはとても危険なことだったのだと中学生になった今、気づきました。いつも冗談ばかり言って頼りにならない父の背中はそこにはありませんでした。通学路として使っている橋の上から川を眺めるとき、そのことを今でも思い出します。

その次は自治会で集まった日、近所の方と話している父を見たときのことです。苦笑いを浮かべ消防団の業務、火事や大雨の呼び出し以外にも定期的な消防車の点検、訓練、集まり、見回りなど様々な負担があり、大変だと言っていました。それに対し相手の方はうなずき、「お疲れ様、この地域に大きな災害が少ないのは消防団のおかげ、私の父のおかげだ。」とおっしゃっていました。目の前でその感謝の言葉を聞いた父はもちろん、私も嬉しくなりました。

実はこの作文を書く前、国語の授業で先生から消防団について知っているかと聞かれると約三十人のクラスメートのうち、手を挙げたのは五人以下でした。それを知り、少し悲しくなりました。しかし、それと同時に父を誇らしくも感じました。災害により、ケガをしたり家や大切なものを失ってしまったりする人がいます。それは消防団がどれだけ活躍してもなくなることはないかもしれません。さらに、消防団は職業ではなく、ボランティアの一環であるため、目立つこともありません。それでも地域のために頑張るかっこいい「消防団」を知っていて良かったと思いました。

先日、全国でも女性が消防団で活躍しているという記事をインターネットで見かけました。私はまだ入ることができませんが、将来は父のように困っている人を進んで助けられる人になりたいです。

熊本県
芦北町立湯浦中学校　二年　　中尾　はずき

消防団員としての父の姿

私の町には、各地区ごとに消防団があります。その中で、私の父も消防団に入団しています。毎日、自分の仕事をしながら、時々消防団の行事にも参加しています。火事や災害などがあれば、サイレンを鳴らして、すぐに駆け付けます。それも、とても素早い行動です。

私の住む芦北町は、令和二年七月豪雨の被害を受けました。その時も、私の父は消防団員として、町中の見回りをしていました。私の家は、父がいなくなると子どもたちだけになるので、少し怖い気持ちもありました。でも今は、地域のみんなのために助けに出る消防団の人たちの方がもっと怖い思いをしていると思うし、その強い心が、本当にすごいなと思っています。父は、家族のことも、消防団員を待っている人のことも安心させるために、絶対に不安な顔をしないのだと思います。そんな父に、とても強さを感じます。父が消防団に行く時の服装は、何度も見たことがあり、そんな日常は、私の中では当たり前になっています。消防車に乗っているところは、記憶の中で一度しかありません。小さいころだったので、なぜ乗っていたのかはっきりとは覚えていないけれど、その時の父の姿だけは、今でもはっきり記憶に残っており、父のことをとてもかっこいいと思った覚えがあります。普段の仕事の時と、火事や災害が起きた時の父の姿は、全く雰囲気が違います。その姿が強くかっこいいです。

消防団というのは、決して簡単な気持ちでできるものではないと思います。日々の訓練はもちろん、みんなで協力しなければならないし、気力も体力も使います。瞬時に人を助けるというのは、時間との勝負だとも思います。災害時には、家族の理解も必要です。私たちにできることは、火事や災害を未然に防いだり、事前に準備をすすめたりすることです。いつも支えてもらっている消防団の方々に感謝の気持ちを持ちながら、自分にできることをまずは家庭で行っていきたいです。そうすることで、少しでも地域から火事や災害で被害にあったり、命を落とす人がいなくなってほしいと思います。

栃木県
下野市立南河内小中学校　八年　　伊澤丈桜

幻の二番員

「消防団」とは、火事を消す人のことだと私は思っていました。消防車より少し小さいけれどサイレンが鳴る赤い車に乗っているし、おそろいの作業服も着ているし…。私は、かつて消防団員として活動経験のある父に消防団について話を聞くことにしました。

父は、六年間消防団に在籍した経験があります。その間に火災現場にも遭遇したと話してくれました。しかし、私が「火を消す仕事」だと思っていた消防団の活動は、実はそれだけではありません。夜間警備や操法大会への出場、台風時の河川氾濫の監視、しば焼き等での活動もあり、消防団とは、防火防災に関する多くの活動に携わる大切な役割を担っていることを教わりました。私が幼い頃、中学校の校庭で見た操法大会。当時の私は、そこに居た全員が「消防士さん」だと思い、ずらりと並んだ消防車の格好の良さに目を奪われていただけでした。消防団員はその日のために多くの練習を重ね、他の分団と競い合うことにより操作技術を高め、万が一の出動に備えていたのだと今になって知りました。消防団員はあくまでボランティアであり、仕事の後や休日の練習が大変だったと父は言いますが、「まるで大人の部活動のようだった。」と言って笑っていました。父の分団では、夜間警備の時に、先輩団員が後輩団員に缶コーヒーをご馳走する習慣があったそうです。私の家の横の自動販売機に今でもポンプ車が停まるのは、きっとそのころの習慣が残っているからなのだと思います。そして、そのすぐ側には防火水槽もあり、ポンプ車が停まる自動販売機と防火水槽のすぐ横の私の家は、防火防災の強化地点だと安心しています。私たちの部活動は、三学年構成ですが、「大人の部活動」は年齢層も広く、消防団の活動に参加することで地域の仲間づくりにもつながるようです。退団後も地域の一員としてお互いに助け合い、集まりのある時には消防団員時代の思い出話に花を咲かせているそうです。

実は、父の出場予定だった操法大会は、雨で中止となってしまいました。たくさんの練習を積んだにもかかわらず、分団の四名は大会への出場とはなりませんでした。そして父は、「幻の二番員」となったそうです。私が大人になり消防団に入る時には、父の出られなかった大会に出場してみたいです。そして、「幻の二番員」のように仲間を大切にし、地域のために活動する大人になりたいです。

福岡県
大牟田市立甘木中学校　三年　　廣田礼那

豪雨災害を通して見えたこと

二〇二〇年七月、大牟田の豪雨災害。学校は昼から授業が中止になり下校になりました。雨が強くたたきつける中、すでに学校の周りは冠水していて、母はやっとの思いで迎えに来ました。無事に家にたどり着いたものの、その日の夜、有明海が満潮になるらしく、自宅が水に浸かるかもしれないという心配があったため、急遽家の近くの公民館に避難することになりました。家が浸かったらどうなるんだろう、と不安でいっぱいでしたが、家族みんなで準備をして公民館に行きました。しかしそこには、私の父はいませんでした。なぜなら父は消防団に入っているからです。父もやっとの思いで仕事から帰ってきましたが、避難することなく、救助に出かけました。

その日、私たちは無事に学校から帰りましたが、友だちのお母さんは、学校の周りが浸かっていて、遠回りをして帰ったにもかかわらず、車が水に浸かってしまい、立ち往生してしまいました。仕方なく車を乗り捨て、友だちと水の中を歩き、近くの小学校まで行って、全身びしょ濡れのまま、避難した小学校で一晩過ごしたそうです。結局車は動かなくなり次の日歩いて帰ったそうです。

父はというと、冠水している場所を探し消防本部に連絡をしたり、自力で避難できないような人たちを避難させたり、友達のように避難をした人たちに毛布や食べ物を配って回ったそうです。

私たちも大変な一日を過ごしましたが、みなと小学校では、小学校周辺が急速に浸水したので、児童はもちろん、先生たちも避難できず、学校に取り残されてしまったそうです。校舎の二階で一夜を明かしましたが五時過ぎには、停電し食料の備蓄もなかったそうです。それを知った消防団の方が、近所のスーパーから無償提供してもらったパンやおにぎりを胸まで水に浸かりながらも、約二キロの道のりを歩いて学校に届けたそうです。私はそれを後から知り、町のために、誰かのために、命がけで行動する消防団の方はとてもすごいなと思いました。

この時、私は生まれて初めて災害の恐ろしさを知りました。これまでは、どこか違う場所の話だと思っていましたが、私の町もいつ浸水してしまうかはわかりません。今でも雨が降ると、避難したことを思い出します。ですが、私の父のように大変な中でも、町の人のために誰かを助けようと救助をした姿はとても誇らしいなと思います。

私も大人になったら、町のためにできることを考えて行動できる人間になりたいと思います。

三重県
亀山市立関中学校　三年
大澤　孝太朗

消防団の活動

僕の父は消防団に入っています。そこで、消防団がどういうものか聞きました。消防団の入団資格は、その地域に住んでいる十八歳以上の人であれば学生でも入団することができ、学業との両立をしている人もいてすごいと思いました。しかし、それぞれの地域の若者は働きはじめると地元を出ていく人が多く、田舎の地域では結婚して地元に帰ってきたときに入団する若者がいるくらいです。そのため、引っ越して来た人に消防団をアピールし、入ってもらうような活動をしています。

主な活動は夏の操法大会とそれに向けての練習や消火訓練の他に、火災時の消火活動、花火大会の警備などがあります。また、消防団では街中でよく見かけるＡＥＤを使う練習もおこなわれています。

その中でも操法大会では消火までの早さと正確さなどを競うため、父は五月頃から七月までの隔週二日で仕事終わりの夜に練習に行っています。僕は小さい頃、ユニフォームを着て練習に出かける父がかっこよく見えました。防災訓練での地域住民への火の用心の呼びかけや、街並みで火災が起きたことを想定して消防士の人たちと地域の人々が連携しながら訓練をおこなうことは、地域の防災に対する意識も高まり、良い活動だと思いました。

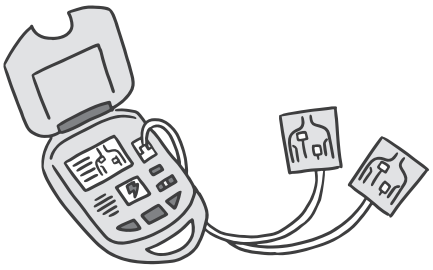
消防車の点検では緊急時に正常に動くように、細めにドライブや防火水槽でポンプを下ろし、水を汲み上げられるかどうかの点検をおこなうため、消火の技術だけでなく、消防車についての知識も覚える必要があり大変そうです。

花火大会では火災が起きたときのために、警備としてみんなの見えないところで待機していたなんて知りませんでした。みんなが安心して花火大会を楽しめるのは、それを支える人達のおかげだと感じました。

また、火事、災害の消火、救助活動では、真夜中であったり、自分も避難しなければいけない状況でも、出動する必要があるので大変な活動です。

そんな大変な消防団の活動をしている父はすごいと思いました。父に消防団でのやりがいを感じるときはどんなときか聞いたところ、「地域の人たちに喜んでもらったときや消火が無事に終わったときが嬉しいな。夏の操法大会に向けての消火訓練があって、大会に向けての目標があるから長く続けられるんだ。」と話してくれました。

僕は消防団の役割は地域の住民を助け、地域を明るくすることだと父の話を聞いて分かりました。大人になったら地域の役に立てるよう消防団にチャレンジしようと思います。



鹿児島県
出水市立出水中学校　二年　　下　薗　虹　空

協力して守る

私の住んでいる出水市には、たくさんの消防団がある。私の祖父と父、そしておじも消防団に入っている。

消防団に入っている人はみんな、自分の仕事を持ちながら、消防団にも所属している。私は祖父に、

「どうして自分の仕事を持ちながら、消防団の仕事もしているの。」

と尋ねてみた。すると祖父は、

「ボランティアだよ。」

と教えてくれた。「地域を守るため」「お年寄りを守るため」だと教えてくれた。

私はこのことを知って、すごいなと思った。私たちの住んでいる地域は、地域のみんなで協力して守るということ。それにたずさわっている人たちが消防団なんだなと思った。みんなで協力する気持ち、みんなが自分たちの手で地域を守りたいという同じ思いがすごいなと感じた。

祖父は、消防団に入って三十七年経つそうだ。活動の中で怖い思いもしたことがあると言っていた。消防団は地域を守るためになくてはならない存在だが、命の危険もある、大変な仕事だと改めて思った。そんな危険な仕事をボランティアという心でたずさわって活動してくれる人に感謝の気持ちがわいてきた。

だが、私は感謝の気持ちとともに、「なぜ危険な仕事だとわかっているのに、ボランティアという心だけでたずさわれるのだろう。やりがいは何だろう」と不思議に思った。私の友達のお父さんも消防団に所属しているため質問してみた。すると、

「市民の安全を守るために自分たちが存在しているという点、台風のときに、消防団の活動を優先し、高齢者の人を手助けしてあげたときに、『こんなときに近くにいてくれてありがとう』や『あなたたちが近くに住んでいると思うと安心する』『ありがとう』と言われたときが、一番やりがいを感じたときだったよ。」

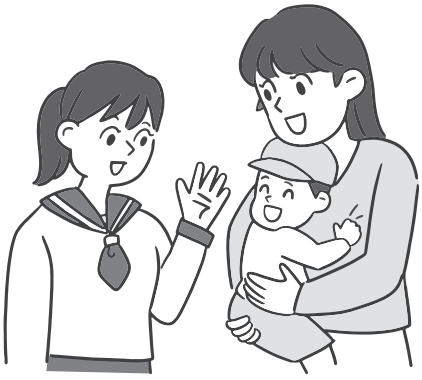
と話してくださった。

私は消防団の活動がどれだけ大切で、地域を守るためになくてはならないものかを改めて深く感じることができた。

自分たちの地域を、地域のみんなで協力して守ろうということは、簡単にできることではないと思う。

祖父の所属している地域には、分団が二つあり、あわせて三十三人しかいないそうだ。若い人が少なくなってきていると祖父が言っていた。若い人が少なくなることで、力仕事など大変なこともある。私は少しでも地域に協力してくれる若い人が増えるといいなと思う。

私も近所のお年寄りの方に声をかけたりして、地域の輪を広げて、自分のできるボランティアから、地域をよりよくしていきたいと思う。



茨城県
河内町立かわち学園　七年
野口虎我

住みよい町にするために

みなさんは、消防団の役割を知っていますか？

消防団には、火災から住民を守るための火災予防や広報活動、地域の防災行動力を高めるための初期消火や応急救護などの指導、地域の祭りの警戒などの役割があります。また、災害が起きたときには、消防署と連携した消火活動、住民の救助・救護活動や避難誘導、逃げ遅れ者の情報収集、現場での広報及び鎮火後の警戒活動等をしています。

僕の学校でも、地域の防災行動力を高めるための初期消火や救急救護などの指導の一環で防災訓練をしたことがあります。水消火器を使っての初期消火訓練、火災の煙から身を守る煙体験、ケガをしたときの応急処置、実際の放水訓練。僕が防災訓練で一番心に残ったのは、放水体験です。消防団の方のように、実際にホースをもって、的に当てようとしたら、ホースは重く、水の力が強く、その上風が吹くと、思ったところに放水することが出来ませんでした。消火するためには、思ったところに水をかけることが出来なくてはなりません。消防団の方のように、放水することは、とても難しいということがよくわかりました。そして、それが出来る消防団の方達は、普段から身体を鍛えているということが分かりました。消防団の方々はカッコイイと思いました。

しかし、今消防団員は、高齢化や団員の減少といった問題があるそうです。消防団を続けるためには、どうしたらよいのでしょうか。

僕は二つのことを考えました。

一つは、ボランティアではなく、町の人たちでお金を集めて、消防団の方にお礼を出すということです。今は、町を大切に思う気持ちだけで、町のために無償で働いてくれています。感謝の気持ちを込めて、お礼を出すことで、少しでも気持ちよく消防団の活動をしてもらえるのではないかと考えました。

もう一つは、消防団の活動を見直すことです。消防団に任されている多くの役割を見直し、消防団以外の人たちで分担することで、負担を減らし、消防団に入りやすくしたいと考えました。

僕は、消防団は町を守る神様のような存在だと思います。僕は、今消防団に入ってはいませんが、消防団の方々に常に感謝の気持ちをもち、自分に出来ることをして、少しでも消防団の方の力になりたいと思います。